姫ケ嶽

銀山の西にそびえる姫ケ嶽は、釣不動という山路を分けて入り、蛇腹、牛頭戸などという危険な細道を行き、手繰杉というのにすがって頂上に至る。ある日のこと、又鬼がいつものように狩りに出ると、道のなかほどで一匹の犬に出会った。犬は首に美しい首飾りを下げていた。いい獲物に出会ったと、又鬼が弓矢を取り出し、ねらいを定めて射ると、犬は矢を受けて苦しみながら山奥に逃げて行った。

又鬼がそのあとを追い、とある洞窟に行ってみると、犬は美しい姫に抱かれて息絶えていた。犬と姫は三年間連れ添っていたのだという。又鬼を見た姫は、「わが仇」とばかり、犬がくわえていた刀を取り、又鬼を一刀のもとに仕止めたという。